

熊本高等専門学校

令和4年度 教育システム点検改善シート

令和5年度

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

序文：熊本高等専門学校 教育システム点検改善シートについて

「教育システム点検改善シート」は、熊本高等専門学校自己点検評価及び外部評価実施要項（以下「要項」という。）第2条第1号に基づき、要項の別紙1に規定する本校の組織図（自己点検評価のP D C Aサイクル図）に基づき、毎年、各種委員会が、要項の別紙2により作成するものである。

「教育システム点検改善シート」は、要項の令和4年3月31日新規制定により、令和4年度(令和3年度実績分)から作成するものとし、今後、毎年度作成し、本校の公式W e bサイトに公開していくこととしているものである。

従来、本校の自己点検評価のP D C Aは、独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）が定める中期目標・中期計画に基づいた、期間中の各年度の年度計画にのっとり策定する本校の年度計画の点検・評価により実施してきた。

しかし、この方法では、機構主体のP D C Aは十分に機能していたものの、本校の各種委員会が独自に掲げている年度ごとの目標・計画についての十分な点検・評価が行えていないところがあった。

そのため、本校の各種委員会が、毎年「教育システム点検改善シート」を作成することにより、各種委員会が独自に自己点検評価を行い、新年度の目標・計画を掲げることで、本校主体のP D C Aを機能させ、本校全体の更なる発展に繋がるような仕組みの一つとして位置付けたものである。

令和5年度に、自己点検評価委員会が各種委員会に対し、令和4年度の実績を対象に「教育システム点検改善シート」の記入を依頼し、この度その結果がまとまったため、ここに報告書としてまとめるものである。

教育システム点検改善シートを作成する委員会等（各種委員会）

1 センター関係

情報セキュリティセンター、グローバルリーダーシップ育成センター、
地域協働プロジェクトセンター、技術・教育支援センター

2 委員会関係

教務委員会、学生委員会、寮務委員会、研究推進委員会、専攻科委員会、
自己点検評価委員会

3 室関係

学生募集室、FD推進室、キャリア教育推進室、学術情報活用支援室、学生
支援室、科学技術教育支援室

別紙 2

令和 4 年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和 4 年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和 5 年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和 5 年 5 月 1 1 日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を 5 月末までに御提出ください）

記入部署：情報セキュリティセンター

記入責任者 役職・氏名：センター長 XXXXXXXXXX

記入年月日：令和 5 年 4 月 日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

外部機関との協定および K-SEC との連携により、サイバーセキュリティを含む情報教育について積極的に学生・教職員への情報提供や研修等への参加を促す。

(2) 1 年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記 (1) に対する取組と改善結果も記入してください。

以下のように学生の参加，教職員への情報提供を行った。

県警主催の「高校生サイバーセキュリティ・プレゼンコンペティション」(10/8) に 4 名(両 C)の学生が参加，九州管区警察局のセキュリティ出前授業を 41 名(八代 C の 1 名含む)に対して 10/31 に実施，K-SEC「KOSEN セキュリティコンテスト 2022」(11/19) について、熊本 C を会場として実施，K-SEC セキュリティウインタースクール 2022(12/26-27)に熊本 C の学生が 1 名参加，熊本 C 学生会主催 RaspberryPI 講習会(12/22)を学生 19 名参加で実施，K-SEC トップガン講習会 (3/2)に熊本 C 学生 3 名が参加，K-SEC セキュリティスプリングスクール 2022(3/9-10)に学生が 3 名参加。

教職員向けには K-SEC セキュリティ関連情報や機構からのセキュリティ関連通知等を適宜周知，実践的サイバー防御演習 CYDER の受講を促した。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

外部機関との協定およびK-SECとの連携により、サイバーセキュリティを含む情報教育について積極的に学生・教職員への情報提供や研修等への参加を促す。
優れた教材や教育棟が全国に展開された際に、その導入を検討する。
高専機構統一調達による情報システムおよび独自調達による情報システムの保守運用に引き続き対応し、校内システム利用環境の改善を目指す。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

一括調達による情報システムについて両キャンパスとも機器更新を行い、運用を開始した。
八代Cの校舎改修のための未設置場所や認証系の設定について別途対応予定となった。

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署：グローバルリーダーシップ育成センター

記入責任者 役職・氏名：センター長・

記入年月日：令和 5年 4月 24日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

新型コロナウイルス感染症に対する海外との往来の状況を注視しつつ、学生への国際交流機会充実をはかり、協定校との協力関係を維持し引き続き従来の活動を推進していく。

1. 海外留学や海外インターンシップ等を通して、異文化理解力や英語によるコミュニケーション力の向上および海外に積極的に飛び出すマインドの育成をはかる取組みを実施する。（派遣）
2. 海外協定校との共同プロジェクトや留学生受け入れを通して、国際交流機会や外国語での学びの機会充実をはかる取組みを実施する。（受入）
3. グローバルエンジニア育成事業を通じた低学年英語教育と国際体験機会の充実。（GE 育成）
4. 「日本型高等専門学校教育制度」の導入支援等の国際協力に寄与する。（国際協力）

[実施計画]

- ・World Youth Skills Day (APAC) での協働
- ・国際力育成および、グローバルエンジニア育成事業に関連したプログラム
- ・タイ高専教職員本邦研修受け入れ(10月)
- ・マレーシア ADTEC Melaka 技術研修受け入れ(11月頃)

(2) 1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記(1)に対する取組と改善結果も記入してください。

海外との往来状況について安全面に関する情報収集を行い、少数ながらも学生の海外派遣も実施した。オンラインツールも利用した国際交流イベントなどを実施して、対面での往来減少による国際体験機会を補った。予定していた取組については以下の通り実施した。

1. 海外留学や海外インターンシップ等を通して、異文化理解力や英語によるコミュニケーション力の向上および海外に積極的に飛び出すマインドの育成をはかる取組みを実施する。（派遣）
>>>従来行ってきた活動のうち一部を再開した
海外留学や海外インターンシップについては、引き続きコロナ禍の影響が強く学校として学生派遣することは見合わせざるを得ない状況が続いたが、12月にはタイで開催された TJ-SIF2022 に本科2年生4名が参加し英語での発表を行った。英語コミュニケーション力向上国際性マインドの育成では、新たに高専間共同参加型のプランに本校からも参加し、オンラインを活用して海外協定校との Ideathon(香港 IVE)や交流会(PCSHS, Loei)などを実施し異文化理解や交流の機会とした。

2. 海外協定校との共同プロジェクトや留学生受け入れを通して、国際交流機会や外国語での学びの機会充実をはかる取組みを実施する。(受入)

>>概ね従来レベルで実施した

海外協定校の Temasek Polytechnic が主催する World Youth Skills Day (APAC) に協力し、Student Ambassador として 2 年生から専攻科までの学生 9 名が APAC 各国の学生とオンライン会議を通じて協働した。留学生受け入れでは前期はオンラインでの受入 7 名であったが、後期には直接受入を行い短期留学生 15 名が本校での研究プロジェクトに取り組んだ。研究活動や国際交流会、学校生活を通じて本校学生が留学生と英語でコミュニケーションする機会となった。

- WYSD Youth Ambassador Program: 5 月-10 月, 参加学生 9 名, 海外学生名
- Ideathon Challenge 2022: 8 月, 参加学生 17 名, 香港 VTC23 名
- e-Xchange (Waste Management): 10 月, 参加学生 13 名, 海外学生 19 名

3. グローバルエンジニア育成事業を通じた低学年英語教育と国際体験機会の充実。(GE 育成)

>>オンライン手段等を利用しつつ実施した

国際 Ideathon やタイ高校生との交流会など、オンラインでの実施ではあったものの、学生が海外学生と交流する機会を設けた。LEGO Serious Play Workshop, 英語科を主体とする英語キャンプなど低学年からの英語力教育に協力して取り組みを行った。

- 夏季英語集中講座: 8 月, 3 年以下 20 名
- PCSHS Loei 校とのオンライン交流: 12-1 月, 3 年生英語 2 クラス
- OB 講演会: 2 月, 2 年生
- LEGO Serious Play メソッドワークショップ: 3 月, 3 年以下 16 名

4. 「日本型高等専門学校教育制度」の導入支援等の国際協力に寄与する。(国際協力)

>>要求事項を十分に実施した

タイ高専教職員の本邦研修の第 1 回受入実施校として、約 3 週間に渡り多くの教職員の協力を得ながら日本型高等専門学校教育制度のモデルとして本校が行う高専教育について情報提供を行った。また 11 月にはマレーシア ADTEC の技術者研修を JICA の協力を得て実施した。タイプレミアムコースについても引き続きアセスメント支援に協力した。

- タイ高専教職員本邦研修受け入れ: 10 月, タイ高専教職員 16 名
- マレーシア ADTEC Melaka 技術研修受け入れ: 11 月, 教員 6 名

(3) 令和 5 年度以降の要改善事項及び計画

感染症や世界情勢など海外往来の安全状況を注視しつつ、学生の国際体験機会充実をはかる。関係教職員の負担軽減のため、学内の国際化に効果的な内容を精査して推進していく。

1. 海外留学や海外インターンシップ等を通して、異文化理解力や英語によるコミュニケーション力の向上および海外に積極的に飛び出すマインドの育成をはかる取組みを実施する。(派遣)
2. 海外協定校との共同プロジェクトや留学生受け入れを通して、国際交流機会や外国語での学びの機会充実をはかる取組みを実施する。(受入)
3. グローバルエンジニア育成事業を通じた低学年英語教育と国際体験機会の充実。(GE 育成)
4. 「日本型高等専門学校教育制度」の導入支援等の国際協力に寄与する。(国際協力)

[実施計画]

- 学生の海外渡航活動の支援(トビタテ等奨学金や支援獲得のための指導)
- 協定校との協働プロジェクト
- 国際力育成および、グローバルエンジニア育成事業に関連したプログラムの実施
- タイプレミアムコースの支援マレーシア ADTEC Melaka 技術研修受け入れ

(4) その他(補足事項などありましたら御記入ください)

センター報、本校 Web、学校概要記事の記載事項変更について検討
研究シーズ集更新の準備
機関別認証評価：自己点検書作成
新・閃きイノベーション活動情報の活用方法についての検討

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署：技術・教育支援センター

記入責任者 役職・氏名：センター長・

記入年月日：令和 5年 6月 6日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

新型コロナも徐々に落ち着きを見せ、臨時的なコロナ対応は減ってきたことから、次年度以降は、定常的な感染リスク管理のもとに、通常の授業、実験、演習が組まれることに対応した機材整備や技術・教育支援体制を整える。

これまで制限されていた出前授業や学外講座が次年度以降は増えてくると思われるので、感染リスク管理を踏まえた地域貢献活動を再開させてゆく。

(2) 1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

<授業、実験、演習>

・R4年度は、ほぼ対面での対応に戻りコロナ前と同様のレベルで教育技術支援が実施されていた。

・オープンキャンパスでの対面授業のオンライン配信の支援を行なった。

<出前授業・学外講座>

・科学の祭典（熊本市立水の科学館）での展示と参加学生への技術支援(R4年12月)

・STEAM連携授業での出前授業の技術支援と参加学生の技術指導(R5年2月)などを担当した。

<学外コンテスト・PBL等への対応>

・学内向けの工作機械の取り扱いの安全指導を行なった。

・3Dプリンタでの試作品製作の支援・指導を行なった。

・ロボコン九州地区大会の準備支援ならびに大会での他高専チームへのピット作業支援を行なった。

<その他>

・公開講座（小中学生向け電子工作、など）を計画していたが、感染者の増加傾向の時期と重なり、R4年度は開催を見送った。

・全員が奨励研究を申請した。新規採用はなし。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

① 授業・実験・卒業研究・特別研究などへの技術的支援を行う。

② PBL・コンテストへの技術的支援を行う。

③ 科学研究補助金（奨励研究）の申請および採択を目指す。

④ 技術教育支援に対する実務資格取得を目指す。

⑤ 地域課題を解決する活動に対して、技術的支援を行う。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

特になし

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署：技術教育支援センター八代

記入責任者 役職・氏名：副センター長 XXXXXXXXXX

記入年月日： 令和 5 年 5 月 25 日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

- ①学生の技術教育支援に対する実務資格取得を目指す。
- ②科学研究補助金（奨励研究）の申請および採択を目指す。
- ③科学研究補助金採択件数については毎年1件を目標とする。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

■科研費については、以下の研究テーマで申請された。

ドローン技術の浸透を目的としたオンラインでの体験講座の開催

溶け落ちを抑制した初心者向けアルミ溶接基礎技能の指導に関する研究（採択）

正しい精密測定の高効率な習得の検討

放射性物質による除去土壌の再生利用に関するVR技術を活用した体験型学習教材の開発

レーザー加工におけるパラメータ変更時の加工への影響からみる最適な加工条件について

■実務資格取得については以下に示す。

「コンクリート技師」

「JIS Z 3811 アルミニウム溶接技能者資格認証（専門級）資格更新に伴う実技試験（結果待ち）」

以上の通り、科研費については、申請件数5件（内採択1件）と目標を達成した。また、実務資格は既に取得されているものも多いが、本年度にも取得があり、技術職員の研鑽の成果が認められた。

■その他

教員の研究、授業、学校行事に対する支援については、例年通り実施されていることが確認できた。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

- ①実験・実習等の実技科目の技術的指導および卒業研究や研究プロジェクト等の技術的支援を行う。
- ②科学研究補助金（奨励研究）の申請および採択を目指す。
- ③技術教育支援に対する実務資格取得を目指す。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

特になし

別紙 2

令和 4 年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和 4 年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和 5 年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和 5 年 5 月 1 1 日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を 5 月末までに御提出ください）

記入部署： 教務委員会
記入責任者 役職・氏名： 教務主事 XXXXXXXXXX
記入年月日： 令和 5 年 5 月 10 日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

- ①-1-1 カリキュラム・ポリシーの改定を令和 4 年度中に実施、公開するとともに、現在のディプロマ・ポリシーとの対応を精査確認し、アドミッション・ポリシーと併せ今後の本校の将来構想に係る議論において、改定についての検討を行う。
- ①-1-2 ①-1-1 に基づき、教学マネジメント体制の構築を検討する。またカリキュラムについて Web シラバスでの具体化を進めるとともに、アセスメントモデルを検討・試行する。
- ①-1-3 リベラルアーツ科目の高学年への展開などさらなる充実を図るとともに、COOP 教育、PBL 教育などアクティブラーニングに関する成果検証を実施する。令和元年度カリキュラムの実質化に向けた計画を実施する。
- ①-1-4 教育の質向上に向けて、引き続き、第 5 ブロック各高専と連携し、FD の実施および体制等に関する検討を行う。
- ①-1-5 学生の主体的な学びの促進等を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や授業科目の履修等を推進する。
- ③-1-1 令和 3 年度に引き続き、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携した PBL を推進・強化し、カリキュラムの実質化を進める。
- ③-1-2 今年度スタートする「リベラルアーツ実践Ⅲ」（4 年生必修）では、全てのグループが外部機関との連携による PBL に取り組めるように、各所との連携をはかる。※「リベラルアーツ実践Ⅱ」（3 年生必修）までは、一部のグループが外部との連携による PBL を経験。
- ③-1-3
地域の自治体等と連携し、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含む STEAM 教育の支援を検討する。
- ③-2-1 新型コロナウイルス感染の影響を考慮しながら、キャリア教育推進室及び地域協働プロジェクトセンターと連携し、メガ・ミーティング、低学年向けキャリア教育等を検討、実施する。

③-2-2 インターンシップを含めた社会実装教育に関する実践例を点検、整理し、学内外での共有に向けた検討を行う。”

④-1 eラーニング高等教育連携（eHELP）の教材やコンテンツなどを参考とし、災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能なコンテンツライブラリを開始する。

また、BYODの推進と併せ、Web Class等のLMSを活用した教育方法の推進、e-Portfolioの試験的導入による教育方法の検討及び効果検証を行う。

④-2 高専間ならびに技術科学大学からの提供科目の活用を促進するとともに、学生が積極的に提供科目を受講できるよう情報の提供および制度の整備を行う。

(2) 1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

①・ディプロマ・ポリシーを含む3ポリシーについて、令和元年度以降入学者用カリキュラムをベースに6学科、2専攻分での各ポリシーの対応を確認し全体的な見直しを行なった。令和5年1月に本校Webサイトに公開した。

・教学マネジメント体制の構築に向けて、熊本高等専門学校教学IR推進室規則を10月に制定した。また、アセスメント・ポリシーを令和5年2月に制定した。

・リベラルアーツコア科目を中心にCOOP教育、PBL教育を実践した。また、令和元年度カリキュラム実質化に向けた検討も当初の予定通り進めた。

・昨年度の九州沖縄地区教員研究集会で議論されていた第5ブロックでのFD協働体制に関して、その構築に向けた担当者会議に着手し、協働体制構築に向けた検討を行った。

・国立高等専門学校間の提供科目について履修等を推進した。また「高専間単位互換科目の決定手順について」を作成した。

③・三菱みらい育成財団の助成を受けながら、令和2、3年度に引き続き地域企業、行政、外部エンジニア等の協力の下、PBLを立案し、実施した。両キャンパスともリベラルアーツ実践I、IIなどの授業を通してPBLを実践した。

・令和4年度から実施の「リベラルアーツ実践III」（4年生必修）において、全てのグループが外部と連携できるよう働きかけ、ほとんどのグループが実際に連携を取りPBLに取り組んだ。

・通常の理科連携授業は例年通り実施した(中学校8校、計20クラス)。情報プログラミング教育を含むSTEAM教育は、今年度に高度化推進経費に採択され、Meshを用いてプログラミングを含めた形での連携授業を計画し、11月より学生とともに教材開発をおこない、1月(1/7に小中学生18名)および2月(2/21に小学校2校、計5クラス)に実施した。

③-2・地域協働プロジェクトセンター、キャリア教育推進室と連携して、地域企業との協力により「探検プログラム」を実施した。3件(6/8八代市、6/10企業、7/～)、学生3名。

・熊本県工業連合会と連携して実施している、社会実装プログラム「新・閃きイノベーション」を実施した。

・地域協働プロジェクトセンター主催のメガ・ミーティングは、内容を再検討することとし、今年度は実施せず、来年度改めて実施する予定とした。

- ・低学年のキャリア教育として、キャリアセミナーやキャリア講演会を実施した。
 - ・インターンシップについては、例年通り報告書をまとめた。また、社会実装に関する実践例の点検、整理を進めた。
- ④
- ・eラーニング高等教育連携（eHELP）の教材やコンテンツなどを参考とし、災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能なコンテンツライブラリの整備を進めた。
 - ・BYODの推進と併せ、Web Class等のLMSを活用した教育方法の推進、e-Portfolioの試験的導入を進めた。
 - ・学生に積極的に情報提供しており、高専間については前期2名、後期4名が、技術科学大学についても、2名が受講した。また、高専間提供科目については、「高専間単位互換科目の決定手順について」を作成した。

（3）令和5年度以降の要改善事項及び計画

- ①
- ・令和4年度に3ポリシーの全体的な見直しを行ない、教学マネジメント体制の構築に向けアセスメント・ポリシーを制定した。今年度はこれらに基づき、学生の学修成果の評価（アセスメント）を実施する。
 - ・リベラルアーツ科目のさらなる充実を図るとともに、COOP教育、PBL教育などアクティブラーニングに関する成果検証を実施する。令和元年度カリキュラムの実質化に向けた計画を実施する。
 - ・教育の質向上に向けて、引き続き、第5ブロック各高専と連携し、FDの実施および体制等に関する検討を行う。
 - ・学生の主体的な学びの促進等を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や授業科目の履修等を推進する。
- ③
- ・令和4年度に引き続き、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携したPBLを推進・強化し、カリキュラムの実質化を進める。
- ※ 令和4年度スタートした「リベラルアーツ実践Ⅲ」（4年生必修）では、全てのグループが外部機関との連携によるPBLに取り組めるように、各所との連携をはかった。「リベラルアーツ実践Ⅱ」（3年生必修）までは、一部のグループが外部との連携によるPBLを経験している。
- ・地域の自治体等と連携し、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を実施する。
- ③-2
- ・新型コロナウイルス感染の影響を考慮しながら、キャリア教育推進室及び地域協働プロジェクトセンターと連携し、メガ・ミーティング、低学年向けキャリア教育等を検討、実施する。
 - ・インターンシップを含めた社会実装教育に関する実践例を点検、整理し、学内外での共有に向けた検討を行う。
- ④
- ・eラーニング高等教育連携（eHELP）の教材やコンテンツなどを参考とし、災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能なコンテンツライブラリを検討する。
- また、BYODの推進と併せ、Web Class等のLMSを活用した教育方法の推進、e-Portfolioの導入による教育方法の検討及び効果検証を行う。

・高専間ならびに技術科学大学からの提供科目の活用を促進するとともに、学生が積極的に提供科目を受講できるよう情報の提供および制度の整備を行う。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別紙 2

令和 4 年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和 4 年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和 5 年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和 5 年 5 月 1 1 日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を 5 月末までに御提出ください）

記入部署： 学生委員会

記入責任者 役職・氏名： 八代 C 学生主事・

記入年月日： 令和 5 年 4 月 29 日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

（2）教育課程の編成等

③-1 高専体育大会や各種コンテスト等で本校学生が活躍し、多くの学生が全国大会に出場できるよう、部活動や学内活動に対して環境の整備や予算的な配慮などの支援を行う。

③-2 学生に対して各種のボランティア活動を周知し、積極的な参加を呼びかけると共に、そうした活動を顕著に行った学生や学生団体に対しては表彰等を行う。

（5）学生支援・生活支援等

② Teams やメール、掲示等により各種奨学金や支援制度を学生に周知し、積極的な応募や利用を呼びかけることで、経済的に困窮している学生の支援を行う。

（2）1 年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

（2）教育課程の編成等

③-1

新型コロナウイルスによる制約がある中、感染防止対策を履行した上で部活動の実施、大会への参加が可能となるようにガイドラインの見直しをおこなった。

また、学内での予算措置や後援会からの援助により、外部コーチや課外活動支援員の登用、各競技・管轄団体のチーム登録料の補助、連合会主催のコンテスト・コンペティション(ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン)における活動経費の補助をおこなった。

③-2

学生に対して、自治体等からの斡旋依頼のあったボランティア(10 月 15 日開催 第 35 回やつしろ全国火花競技大会、11 月 20 日開催 第 27 回熊本国際交流祭典)等について周知し、意欲のある学生がボランティアをおこなった。

また、本校主催、管轄の活動においても、5 月 21 日に開催されたおもしろサイエンス・わくわく実験講座 2022、6～7 月・11 月に開催された九州沖縄地区高専体育大会、10 月 30 日に開催された九州沖縄地区大会ロボコン大会等の運営補助のボランティアを募り、多くの学生がボランティア業務に従事した。

（5）学生支援・生活支援等

② 学生課・学務課より、全学生向け teams で各種奨学金や支援制度(4 月 29 日に日本学生支援機構奨学金、9 月 7 日に各種経済支援制度、9 月 21 日に奨学金情報検索サービス Canpass、10 月 3 日に日本教育公務員弘済会給付奨学金等)の周知をおこない、経済的に困窮している学生が応募し、採択されている。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

(2) 教育課程の編成等

③-1

高専体育大会およびロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン等に参加する本校の学生が大会で活躍できるように、予算面と環境面の両方において可能な限りの支援をおこなう。

③-2 学生にボランティアへの参加を積極的に呼びかけ、一定時間参加した学生にはボランティア単位を発行する等のインセンティブを与えることで、学生にボランティア活動への参加を推奨する。

(5) 学生支援・生活支援等

② teams、メール、掲示板等を利用し、学生に各種奨学金制度に係わる情報を発信し、できるだけ多くの学生がそうした奨学金制度を利用することを推進する。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

--

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署： 寮務委員会

記入責任者 役職・氏名： 寮務主事(熊本C)・ XXXXXXXXXX

記入年月日： 令和 5 年 5 月 9 日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

- (1) 寮生活を通じた分野横断的能力の育成：寮生会活動を通じて寮生に自覚を促しながら、コミュニケーション力、チームワーク力、リーダーシップ、マネジメント力などの分野横断的能力涵養を推進
- (2) 寮システムの改善：寮生会役員と共同した寮運営の強化、寮業務の見直しと効率化
- (3) 環境整備：安全性確保、ネットワーク、自学自習環境、老朽化対策を推進

(2) 1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記(1)に対する取組と改善結果も記入してください。

- (1) 寮生が規律ある共同生活を自主的に運営するため、会則を定め、寮長を中心とした寮生役員会の主導によって寮生会が活動している。寮生会総会、寮生役員会、寮イベントなどの開催をとおして、寮生会活動に自主性を持たせることで、分野横断的能力の育成を図った。
- (2) 寮務委員会は寮生役員会と協議したり、寮生から直接意見を聞く機会を設けたりして、寮運営を行なった。また、寮業務の軽減を目的として、寮生が行う手続きのオンライン化などを検討した。
- (3) 寮務委員会経費の他、寮管理費を用いて生活環境の整備を行なった。老朽化対策としては、令和4年度補正予算施設整備事業で、(熊本C)明和寮北棟および(八代C)八龍寮A棟1期の改修予算措置がなされた。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

- (1) 寮生活を通じた分野横断的能力の育成：新型コロナウイルス感染症の終息を見極めながら、寮生会活動を推進
- (2) 寮システムの改善：欠食・外泊・点呼システムの導入
- (3) 環境整備：明和寮北棟(熊本C)および八龍寮A棟1期(八代C)の改修に対応するための寮運営

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください。）

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署： 研究推進委員会

記入責任者 役職・氏名： 研究主事・

記入年月日： 令和 5年 4月 29日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

1. 社会連携に関する事項

- ・地域協働プロジェクトセンター、学内研究プロジェクト、研究ネットワークを活用し、産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究の受け入れなどを促進させる。
- 2. 外部資金、寄附金その他自己収入の増加
 - ・社会連携活動の推進として、本校が中核拠点校である高専発！「Society5.0 型未来技術人財」育成事業 GEAR5.0 介護・医工分野の活動や近隣市町村との連携協定等を行うことで他機関と連携する機会を増やし、外部資金獲得の増加を図る。
 - ・卒業生が就職した企業、同窓会等へ熊本高専地域連携振興会の案内を行うことで、会員の獲得増及び寄附金の獲得を図る。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

1. 社会連携に関する事項

- ①地域協働プロジェクトセンターと連携して、学内研究プロジェクト、研究ネットワークの組織化を全教員へ教員会やTeamsを活用して強化した。その結果、ほとんどの教員が一つは研究プロジェクトのメンバーとなり、横連携をするような体制が整備できた。今後も、引き続き、毎年、年度更新を行って整備していく。
- ②産学連携コーディネータの協力と卒業生が就職した企業、同窓会等へ熊本高専地域連携振興会の案内を行った結果、地域連携振興会の会員数が100企業を超えることができ、産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究の受け入れなどの連携体制が整った。

③社会連携活動の推進として、本校が中核拠点校である高専発！「Society5.0 型未来技術人財」育成事業 GEAR5.0 介護・医工分野の活動を通して、地元の合志市と令和4年6月に包括連携協定を行い、令和5年3月には、熊本県と教育委員会との包括連携協定を締結した。これを受けて、熊本県の高校の教員に対して情報のプログラミング教育の研修会を実施した。

2. 外部資金、寄附金その他自己収入の増加

- ①科研費申請に関する講習会として、第1回を令和4年6月24日(金)に高松洋校長を講師として外部資金の申請のため講演を開催し、第2回を令和5年2月2日(木)に高専機構本部の■■■■統括 KRA を招き、科研費申請書の書き方、科研費課題について、外部資金獲得に向けた講演と個別相談会・情報交換会を実施した。
- ②地域連携振興会の研究成果推進事業(令和3年度:2件採択)や KOSEN EXPO(1名発表:10月24日(月)~28日(金)オンライン)や、12月13日(火)対面開催をはじめ各種イベントにおける研究成果の発表、産学連携コーディネータの活動等により、外部資金については、令和4年度は、共同研究 9,514,999 円(令和3年度:7,007,500 円)、受託研究 27,839,111 円(令和3年度:10,464,478 円)と増額を達成している。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

- ① 熊本高専における①研究活動に関する目的、基本方針、目標等が制定されており、研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能していることを再確認する。
- ② GEAR5.0 介護・医工分野の活動や近隣市町村との連携研究活動等の実施状況や問題点を把握し、令和5年度から開始されたスタートアップ事業(アントレプレナーシップ教育)、COMPASS 5.0 の半導体人材育成事業と連携した社会実装教育への支援と地域連携を推進する。
- ③ 持続可能な教育体制に向けた外部資金・寄付金の獲得体制づくりのための、地域企業や卒業生 OB/OG との連携強化に向けたメガミーティングの再開と仕組みの体制づくりの支援を行う。

(4) その他(補足事項などありましたら御記入ください)

別紙 2

令和 4 年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和 4 年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和 5 年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和 5 年 5 月 1 1 日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を 5 月末までに御提出ください）

記入部署：専攻科委員会

記入責任者 役職・氏名：専攻長・XXXXXXXXXX

記入年月日：令和 5 年 5 月 1 1 日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

(計画)

- ・ 専攻科課程の入学受入れに関する方針（アドミッションポリシー）に沿って適正に選抜されていることを確認する。
- ・ カリキュラムポリシーに沿って講義、演習等が行われ、ディプロマポリシーに基づき成績評価・単位認定を行う。
- ・ 進学や就職といった進路の状況等からの実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められることを確認する。

(2) 1 年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記 (1) に対する取組と改善結果も記入してください。

以下の理由により、計画に沿って適切な点検、改善が行われたものと判断される。

- ・ それぞれの専攻部会において、専攻のアドミッションポリシーに沿った推薦選抜、学力選抜が行われていることを確認し、選抜要領について見直し、一部修正作業等を行った。
- ・ シラバスのチェックにより、カリキュラムポリシーに沿った講義、演習等が実施されていることを確認した。また、試行的に成績評価に関する異議申し立て期間を設け、適切な評価方法が実施されている確認を行った。
- ・ 企画運営会議において、定期的に 2 年生の就職、進学状況を確認・報告を行うことで情報を共有し、年度末においては、専攻科 1, 2 年生の単位の取得状況の確認、および、2 年生の各コース修了要件の到達状況の確認を行った。修了予定者全員、学位授与機構より学士（工学）が授与された。また、学会等での発表者については、学術奨励賞の授与を行った。

また、九大工学部・九州沖縄 9 高専連携教育プログラムに関して、作業部会等を通じて適切に準備を進め、本科 4 年生へのオープンキャンパス、進路説明会開催などの実施も行った。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

(計画)

- ・ 専攻科課程の入学者受け入れに関する方針(アドミッションポリシー)に沿って適正に選抜されていることを確認し、適宜改善作業を行う。
- ・ カリキュラムポリシーに沿って講義、演習等が行われ、ディプロマポリシーに基づき成績評価・単位認定を行う。
- ・ 進学や就職などの進路状況、および、単位取得、修了判定から、学習・教育・研究の成果が認められることを確認する。特に、研究の成果については、特別優秀賞、学術奨励賞の授与、各種学会からの表彰を通じた確認も行う。

(4) その他(補足事項などありましたら御記入ください)

- ・ 令和5年度に入学した九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム1期生について、科目の履修、インターンシップ、研究活動、生活指導等をきめ細かにを行い、次年度の修了にしっかりと繋げる。

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください。）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署： 自己点検評価委員会

記入責任者 役職・氏名： 自己点検評価委員会委員長・教授 ■■■ ■■■

記入年月日： 令和5年 5月11日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

- 1 外部評価として位置付ける令和4年度運営諮問会議に対応する。
- 2 平成28年度に受審した機関別認証評価の指摘事項の改善を継続するとともに、令和5年度に受審予定の機関別認証評価に向けてアンケートを実施し、その結果を分析して必要な改善を行う。
- 3 機関別認証評価準備ワーキンググループと連携し、令和5年度受審予定の機関別認証評価への対応を進める。
- 4 本技術者教育認定機構（JABEE）による技術者教育プログラムの継続認定を受けるための、教育に係る自己点検評価の対応を進める。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

- 1 令和4年度運営諮問会議は、令和4年11月14日（月）に熊本キャンパスにて実施し無事終了した。
- 2 平成28年度機関別認証評価の指摘事項のうち、更なる対応が必要であった評価基準6については、令和4年6月に対応結果について自己点検評価委員会で総括し、令和4年7月に機関別認証評価準備ワーキンググループで確認した。
また、令和3年度から令和4年度にかけて、卒業生、就職先企業、進学先大学等を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を自己点検評価委員会として分析し、今後学校として対応が必要と考えられる点について企画運営会議に提言を行った。
- 3 機関別認証評価準備ワーキンググループと連携し、令和5年度受審予定の機関別認証評価への対応を進め、令和5年2月17日に大学改革支援・学位授与機構（NIAD-QE）に「自己評価書」の準備第1稿を提出し、NIAD-QEとの事前相談を行い、更に準備を進めている。
- 4 各キャンパスのJABEE準備のワーキンググループと連携して、令和5年2月1日にJABEE事務局に審査書類を提出した。

（3）令和5年度以降の要改善事項及び計画

- 1 外部評価として位置付ける令和5年度運営諮問会議に対応する。
- 2 平成28年度に受審した機関別認証評価の指摘事項の改善を継続するとともに、令和5年度に受審予定の機関別認証評価に向けて実施したアンケートの結果の分析から必要な改善を行う。
- 3 機関別認証評価準備ワーキンググループと連携し、令和5年度受審予定の機関別認証評価に対応する。
- 4 日本技術者教育認定機構（JABEE）による技術者教育プログラムの継続認定のために行われるWebによる実地審査に向けて対応を進める。

（4）その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署 学生募集室

記入責任者 役職・氏名：八代C学生募集室長 XXXXXXXXXX

記入年月日：2023年4月18日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

学生募集に関する計画については、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、昨年度と同様に実施する計画であるが、対面でのオープンキャンパス参加人数制限、塾などが主催する説明会がほとんどなかったことで、熊本高専をアピールする場が少なくなっている。様々な制限があるなかで、Web やオンライン会議などを利用した効果的な募集活動について、検討したい。

(2) 1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記(1)に対する取組と改善結果も記入してください。

オープンキャンパスでは、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、対象者・同伴者を制限するなど感染対策を施しながら、熊本キャンパスでは寮を含む施設見学、八代キャンパスでは学生参加による体験実習など中学生に本校の魅力をアピールする工夫を行った。また、熊本大学「JST 女子中高生理系進学支援プログラム」と連携して、相談コーナーでは、女子学生による相談ブースを設置した。昨年度に引き続き、オンライン相談会を実施した。

令和5年度本科入学者選抜では、WEB 出願システムを導入した。これに伴い募集要項の検討、WEB 出願の手引きの作成を行った。WEB 出願システムの導入はデータ入力など事務手続き・作業の軽減につながった。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことを受け、オープンキャンパスや入試説明会など、コロナ禍において実施していた制限の緩和や新たに取り組んだ学生募集活動の成果と今後の実施に向けての検討を行う。

また、本科入学者選抜で導入したWEB 出願の方法等における問題点の改善に取り組むとともに、本科編入学入学者選抜にWEB 出願を導入する。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別紙 2

令和 4 年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和 4 年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和 5 年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和 5 年 5 月 1 1 日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を 5 月末までに御提出ください）

記入部署： FD 推進室

記入責任者 役職・氏名： FD 推進室長 ■■■■ ■■■■

記入年月日： 令和 5 年 5 月 8 日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

全ての教員が参加できるファカルティ・ディベロップメント等の教員の能力向上を目的とした学内研修を実施する。また、教員の能力向上を目的とした外部研修会等に積極的に教員を派遣する。

(2) 1 年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記 (1) に対する取組と改善結果も記入してください。

両キャンパスの全教員を対象とした両 C 合同教員研修会を 8 月 30 日に実施し、進級制度について意見交換を行った。また、全教員が参加できる研修会として、「ベップトーク研修会」、「Power Automate 研修会」、「授業アンケートの振り返りとシラバス作成について」、「FD 講演及び研修会（ワークショップ）：「各教員が育成したい学生像について」」を開催した。外部の FD 研修については、各教員の教育研究費を活用した研修参加を奨励すると共に、FD 推進室予算から、「ベップティーチャー養成講座」、「主体的・対話的・深い学びの推進」に向けた教員向け研修会」への参加支援を行った。学校の枠を超えた FD 活動として、第 5 ブロックでの FD 協働体制の実現に向けてキックオフ会議を実施し、第 5 ブロック FD マップ作成のための FD 活動一覧の調査が完了している。上記内容の内、「ベップトーク研修会」は昨年度の研修会の際にいただいた要望に沿った実践的な内容に関する研修である。

(3) 令和 5 年度以降の要改善事項及び計画

引き続き、全ての教員が参加できるファカルティ・ディベロップメント等の教員の能力向上を目的とした学内研修を実施すると共に、教員の能力向上を目的とした外部研修会等に積極的に教員を派遣する。また、教育改善グループの活動の活性化のために、八代キャンパスでのグループの活動目標の設定の試行や、学内授業研究の内容を教材研究等も含めるように拡大する変更などの取り組みを行う。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署：キャリア教育推進室

記入責任者 役職・氏名：キャリア教育推進室長・ XXXXXXXXXX

記入年月日：令和5年4月27日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

キャリア教育の実施計画。（熊本）キャリアセミナー（1～4年、専攻科生）、JEITA 電子情報技術産業協会・半導体部会の技術講演会（3年）、キャリア講演会（1,2年）を実施予定。（八代）キャリアプログラム（2～4年）、進路セミナー（4年）、キャリア研修会（3・4年、専攻科生）を実施予定。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

キャリア教育の実施状況。（熊本）本科生（1～4年）および専攻科生を対象としたキャリアセミナーを12/19（参加企業数140社）、本科3年生向けJEITA 電子情報技術産業協会・半導体部会の技術講演会を2/6、1年向けキャリア講演会を12/16に実施した。（八代）本科2～4年対象にキャリア研修会を12/3に実施、事前指導を11月、事後指導を12月に各クラス別におこなった。本科4年対象に「進路セミナー」を通年30時間実施した。

（3）令和5年度以降の要改善事項及び計画

キャリア教育の実施計画。（熊本）キャリアセミナー（1～4年、専攻科生）、JEITA 電子情報技術産業協会・半導体部会の技術講演会（3年）、キャリア講演会（1,2年）を実施予定。（八代）キャリアプログラム（2～4年）、進路セミナー（4年）、キャリア研修会（3・4年、専攻科生）を実施予定。

（4）その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署：学術情報活用支援室

記入責任者 役職・氏名：学術情報活用支援室長・ XXXXXXXXXX

記入年月日：令和 5年 4月 27日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

- ・新型コロナ感染症対策のため、学生図書委員との連携活動があまりできなかったため、次年度は同対策の様子を見ながらできるだけ連携できるようにしたい。
- ・同じ理由でグループ学習室の活用ができなかったため、学生に利用してもらえるよう工夫したい。ただし、こちらも同感染症対策によっては使用できないことも考えられる。
- ・蔵書が増えて、置き場所に困っているため、点検を行って古く利用価値のない本は除籍して整理を進めたい。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

（熊本C）

- ・新型コロナウイルス感染症対策については、随時応じたが、学校の対応レベルに応じた図書館の対応表を作成してHPにも掲載した。
- ・特集コーナー（機械学習等の専門書コーナー、文芸賞受作などの流行作家コーナー）用の棚を設置した。
- ・推薦図書、ブックハンティングなどで選書した。配置は上記コーナー設置のほか、書架の整理を行い、著者別に並び替えた。利用の稀な古い本は書架へ移動した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、学生図書委員会の開催ができず委員との協力はできなかった。その分、学生図書委員長と連絡を密にし、ブックハンティングや図書館だより作成を協力しながら実施した。

（八代C）

図書館改修に伴い仮設図書館での業務であったが、例年どおり学生推薦・教員推薦、講演会寄附および9/6のブックハンティングにより蔵書の充実を図った。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

(熊本C)

- ・希望の声の申請方法を Teams や WEB を利用した電子申請へ変更し、もっと学生からの希望が反映できるようにしたい。
- ・昨年度までのブックハンティングはオンラインでの実施だったが、令和5年度は現地開催に変更する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策については、学校の対応レベルに応じて、感染拡大防止に努め、図書館内の学習スペースを広げていきたい。

(八代C)

図書館改修が終了、6月中旬以降業務再開予定。学生・教員の推薦、ブックハンティングを通して蔵書の充実を図るとともに利用者および貸出冊数の増加を目指す。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

--

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署： 学生支援室

記入責任者 役職・氏名： 准教授 XXXXXXXXXX

記入年月日： 令和 5年 4月 25日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

- ①-1 教職員の学生支援への意識を高められるように、学生支援に関わる講演会や研修会をさらに充実させていく。支援対象学生の情報共有のため、学科会議や学生支援室会議にSSWが参加し、支援対象学生の状況について説明してもらう場を設け、情報共有を図る。
- ①-2 特別に学習支援が必要な学生について、引き続き特別学習支援プログラムを実施し、特別支援対象の学生も含めて、定期的に成績や欠課時数について確認し、対応を検討する。また、特別学習支援プログラムに申請しながらも参加できていない学生について、学生支援連絡協議会と方策の検討を継続していく。
- ①-3 今後も学生を対象としたメンタルヘルスの講演会を継続して実施する。講師の都合が合えば、全学年を対象として実施したい。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

- ①-1 月に1回、学生支援室会議にSSWが参加し、支援対象学生の情報共有を行った。各学科への情報提供を、支援室員等を通じて行ってはいるが十分ではない。今後とも継続と検討が必要である。また、SSWを講師に招き、教職員の学生支援の意識高揚につなげる研修会が、学生支援連絡協議会主催で実施された。まだ周知が不十分なので、今後も継続して研修会の必要性がある。
- ①-2 令和4年度は11名の学生に対して、特別学習支援プログラムを実施した。申請しながら参加できていない学生がまだいる点や定期的な成績や欠席の情報共有方法の見直しなどが今後の検討課題である。
- ①-3 1年生に対して、メンタルヘルスケアやの講演会を実施した。全学年を対象として実施が講師依頼や日程調整等で難しい面が多かった。今後でもできることから実施していく。

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

①-1 学生のメンタルヘルスに関わる学生支援のための講演会、学生へのアンケート調査を行い、学生支援連絡協議会、学生支援室キャンパス部会、担任会、グループ会議における情報交換や、教職員対象の研修会を継続して行う。特に各学科への支援対象学生の情報提供機会を増やして行く。

①-2 特別に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムの継続と、当該学生の修学支援や就労支援の方策検討等を学生支援連絡協議会および外部専門家と協力して行っていく。特に申請しているが参加できるようにする。

①-3 青年期である学生の心のケアを継続して行うとともに、継続して自殺防止に向けての取り組み強化を図る。特により多くの学生にメンタルヘルスケアの講演会が実施できるようにする。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

特になし

別紙2

令和4年度 教育システム点検改善シート

昨年度（令和4年度）の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに令和5年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限：令和5年5月11日（木） 提出先：OneDrive リンク先（総務課）

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署：科学技術教育支援室

記入責任者 役職・氏名：室長 XXXXXXXXXX

記入年月日：令和 5年 5月 11日

（1）昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「（3）次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

1. 小中学校（小中学校理科部会とも連携）との連携理科授業を実施し理科教育支援を推進する。STEAM 教育推進とからめプログラミング教育および両キャンパスの連携を強化する。さらに連携理科授業を連携 STEAM 授業として県内全域に広げるための準備をおこなう。
2. 小中学校の教員を対象にした理科実技研修会についても要望があれば実施する。
3. 本校主催及び外部機関依頼の実験工作教室についても実施する。
4. 体制が整えば、他高専と連携した実験工作教室や科学技術教育支援に関する集会を実施する。
5. 科学の裾野を広げる幅広い科学教育支援とともに、突出した次世代人材の育成にも注力する。
6. 新しい生活様式に対応した科学技術教育支援の仕組みを検討し、オンデマンド教材の開発に取り組む。

（2）1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記（1）に対する取組と改善結果も記入してください。

1. 小中学校（小中学校理科部会とも連携）との連携理科授業を実施した（8中学校19クラス）。STEAM 教育推進とからめ両キャンパスで連携し STEAM 連携理科授業を実施し（2小学校6クラス）、連携理科授業を連携 STEAM 授業として県内全域に広げるための準備をおこなった。
2. 小中学校の教員を対象にした理科実技研修会については要望が無かったため実施していない。
3. 本校主催及び外部機関依頼の実験工作教室について熊本 C9 件、八代 C9 件と多数実施できた。
4. 他高専と連携した実験工作教室や科学技術教育支援に関する集会については、実験講座の事前打ち合わせや反省会ではあるが小規模で実施できた。
5. 科学の裾野を広げる幅広い科学教育支援とともに、突出した次世代人材の育成のため高専ハカセ塾を実施した。
6. 新しい生活様式に対応した科学技術教育支援の仕組みを検討し、対面の講座の参加者数を適切に制限して実施する工夫を行った

(3) 令和5年度以降の要改善事項及び計画

1. 小中学校（小中学校理科部会とも連携）との連携理科授業を実施し理科教育支援を推進する。STEAM 教育推進とからめプログラミング教育および両キャンパスの連携を強化する。さらに連携理科授業を連携 STEAM 授業として県内全域に広げるための活動をおこなう。
2. 小中学校の教員を対象にした理科実技研修会についても要望があれば実施する。
3. 本校主催及び外部機関依頼の実験工作教室についても実施する。
4. 他高専と連携した実験工作教室や科学技術教育支援に関する集会を実施する。
5. 科学の裾野を広げる幅広い科学教育支援とともに、突出した次世代人材の育成に注力するため、これまでの高専ハカセ塾の活動を引き継ぎ本校独自の事業として実施する。
6. 新しい生活様式に対応した科学技術教育支援の仕組みを検討し、対面での実施と並行して、オンデマンド教材の開発にも取り組む。

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

--

熊本高等専門学校自己点検評価及び外部評価実施要項

令和4年3月31日制定

令和4年11月25日一部改正

(趣旨)

第1条 この要項は、熊本高等専門学校学則第1条の2第2項に基づき、熊本高等専門学校（以下「本校」という。）が自ら行う点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）及び外部評価の実施に関して、必要な事項を定める。

(自己点検評価の実施)

第2条 本校の自己点検評価は、次の各号により実施するものとする。

- (1) 別紙1の「熊本高等専門学校組織図（自己点検評価のPDCAサイクル図）」に基づき、毎年、各種委員会が別紙2の「教育システム点検改善シート」を作成することとし、自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）は、必要に応じ本校の運営組織（以下「運営組織」という。）に自己点検と改善を依頼し、その改善結果について報告を求めるものとする。
- (2) 委員会は、運営組織の協力を得て、5から7年ごとに、別表に掲げる「評価項目及び評価基準」（以下「基準」という。）に基づき、本校が行う教育研究活動等の目的への達成状況及び成果等を勘案した上で、基準ごとに設けた観点に係る現状分析及び整理を行うことにより実施する。

(自己点検評価の評語)

第3条 前条第2号の自己点検評価は、達成度に応じて、次の評語により評価を行う。

評語	評 価
A	基準を満たしている。
B	ほぼ基準を満たしている。
C	基準を満たしているが、更なる改善が望ましい。
D	基準を満たしていないので、改善を要する。

(自己点検評価結果の報告)

第4条 委員会委員長（以下「委員長」という。）は、第2条第2号により実施した結果に基づき自己点検評価報告書を作成し、企画運営会議に報告するものとする。

(外部評価の実施)

第5条 本校の外部評価は、別紙1の「熊本高等専門学校組織図（自己点検評価のPDCAサイクル図）」に基づき、校長が、熊本高等専門学校運営諮問会議規則第3条に定める事項を運営諮問会議に報告し、運営諮問会議は、自己点検評価報告書、ヒアリング等により評価及び検証を行うものとする。

(外部評価結果の報告)

第6条 運営諮問会議は、評価及び検証の結果を校長に報告し必要な提言を行うものとする。

(外部評価結果の改善)

第7条 校長は、前条の報告に基づき、委員会に改善の検討を行うように指示する。

2 委員会は、前条の報告内容を協議し、改善が必要と認めた事項について事項に定める対応区分を決定し、関係する運営組織に改善策の作成を付託するとともに、これに基づいた改善を指示するものとする。

3 前項の対応区分は、次のとおりとする。

評語	評 価
A	改善に向けた対応を実施している。
B	改善に向けた対応を、直ちに行う必要がある。
C	改善に向けた対応を、将来的に行う必要がある。
D	改善に向けた対応には、十分な検討が必要である。

4 第2項により改善策の作成の付託及びこれに基づいた改善の指示を受けた運営組織は、改善策及び改善結果を委員会に提出しなければならない。

5 委員会は、前項の改善策及び改善結果の取りまとめを行うとともに、基準に対する第3条の達成度を再度評価し、事項に定める対応区分を決定し、運営諮問会議に報告するものとする。

(改善策及び改善結果の公表)

第8条 委員長は、前条第5項により行った報告を社会に公表するものとする。

(基準等の見直し)

第9条 第2条第2号に定める基準は、本校の目的、目標、方針等及び点検評価の目的を踏まえ、一貫性を保ちつつ時代の要請等を鑑み、必要に応じて見直すものとする。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、自己点検評価等に関し必要な事項は、別に定める。

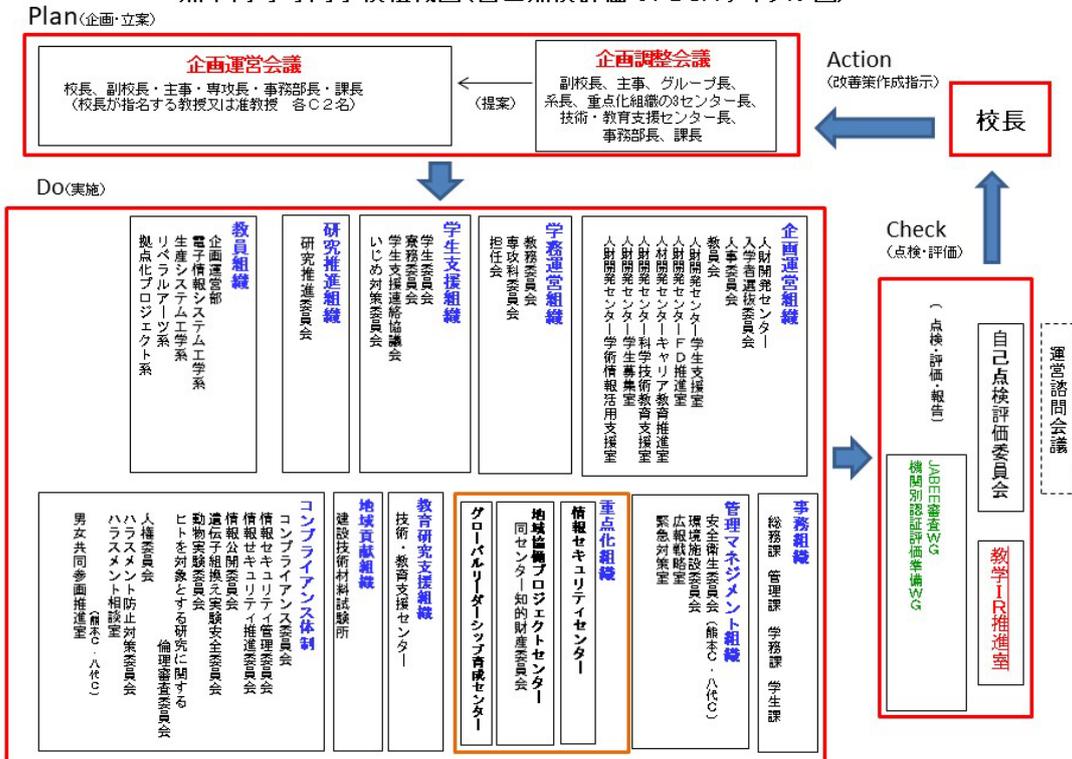
附 則

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年11月25日から施行し、令和4年10月13日から適用する。

熊本高等専門学校組織図(自己点検評価のPDCAサイクル図)



別紙2

年度 教育システム点検改善シート

昨年度の「要改善事項」、年間の活動状況（主たるもので、年度末までに実施予定を含む）及び現状についての点検結果並びに次年度以降の改善すべき事項及び計画について御記入ください。（必要な場合は適宜枠を広げるなどして御使用ください）

提出期限： 月 日 提出先：総務課

（なお、提出後において、翌年度の要改善事項や計画に変更がある場合は、修正版を5月末までに御提出ください）

記入部署： _____

記入責任者 役職・氏名： _____

記入年月日： _____ 年 ____ 月 ____ 日

(1) 昨年度の「要改善事項及び計画」

※昨年度のシートに記載されている「(3) 次年度以降の要改善事項および計画」をコピーしてください。

(2) 1年間の活動状況（主たるもの）及び現状についての点検結果

※上記(1)に対する取組と改善結果も記入してください。

(3) 次年度以降の要改善事項及び計画

(4) その他（補足事項などありましたら御記入ください）

別表

熊本高等専門学校自己点検・評価基準

評価項目	評価基準	観点
<p>1. 教育の質保証システム</p>	<p>(1) 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。</p>	<p>①教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。</p>
		<p>②内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。</p>
		<p>③学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。</p>
		<p>④自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。</p>
	<p>(2) 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。</p>	<p>（準学士課程） ①準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>
		<p>②準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>
		<p>③準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>
		<p>（専攻科課程） ④専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>
		<p>⑤専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合</p>

		性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。
		⑥専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。
	(3) 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	①学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。
2. 教育組織及び教員・教育支援者等	(1) 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	①学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。
		②専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。
		③教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。
	(2) 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	①学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。
		②学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。
		③学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。
	(3) 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	①全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。
		②教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。
	(4) 教員の教育能力の向	①授業の内容及び方法の改善を図るための組織

	上をを図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	<p>的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。</p> <p>②学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。</p> <p>③教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。</p>
3. 学習環境及び学生支援等	(1) 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	<p>①学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。</p> <p>②教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。</p> <p>③図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。</p>
		<p>④学生において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。</p> <p>⑤図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。</p>
	(2) 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	<p>①履修等に関するガイダンスを実施しているか。</p> <p>②学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。</p> <p>③特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。</p> <p>④学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。</p> <p>⑤就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。</p> <p>⑥学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の</p>

		課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。
		⑦学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。
4. 財務基盤及び管理運営	(1) 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	①学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。
		②学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。
		③学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。
		④学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。
	(2) 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	①管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。
		②危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。
		③外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。
		④外部の教育資源を積極的に活用しているか。
		⑤管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組(スタッフ・ディベロップメント)が組織的に行われているか。
(3) 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	①学校における教育研究活動等の状況についての情報(学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。)が公表されているか。	
5. 準学士課	(1) 準学士課程の教育課	①教育課程の編成及び実施に関する方針(カリ

程の教育課程・教育方法	程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	キュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。
		②教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。
		③創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。
	(2) 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	①教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。
		②教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。
	(3) 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	①成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。
②卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。		
6. 準学士課程の学生の受入れ	(1) 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	①入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。
		②入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。
		③実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大

		幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。
7. 準学士課程の学習・教育の成果	(1) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。	<p>①成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>②達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>③就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。</p>
8. 専攻科課程の教育活動の状況	(1) 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	<p>①教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。</p> <p>②準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。</p> <p>③教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。</p> <p>④教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。</p> <p>⑤成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p> <p>⑥修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定</p>

		され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。
	(2) 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	①入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。
		②入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。
		③実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。
	(3) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	①成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。
		②達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。
		③就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。
		④修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。
9. 研究活動の状況	(1) 本校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	①研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。
		②研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。
		③研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。
		④研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

10. 地域貢献活動等の状況	(1) 本校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	①地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。
		②地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。
		③地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。
		④地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。